

不思議な縁が叶えた

復活譚

餃子専門店

百老亭

大須商店街の小径に昭和28年から
つづく餃子の名店があった。

『あった』、この店は一度、商店街から姿を消しているから。昭和28年、大須観音境内で屋台から始まった、知る人ぞ知る餃子の名店。その店は『百老亭』。

身体がいうことを聞かない

派手さはない。この場所でも何十年も営業を続けてきた店だった。三代にわたり餃子を焼き続けていた。しかし65年目「百老亭」は姿を消した。店主の身体は病に蝕まれそれはもう、フライパンを置けと引導を渡されたのも同然だった。



旧店舗裏に残る看板



百老亭 大須本店

名古屋市中区大須2丁目14-27
TEL 090 3967 4728
平日 17時〜21時
土日 11時〜14時 17時〜20時
水・木 定休日

周遊いから生まれ大感動エピソード

回復後、体は良くなったが元気がない。そんなお父さんを見ていられたかった。

療養後は元気を取り戻し、他の仕事にも出た。飲み屋にも通った。でもなんか物足りなかった。

そして近所の飲み屋で年の離れた飲み友達の小林利起さんと出会った。同じ時に同じ場所にあった。人生が交差し動き出すにはそれだけで十分だった。



一緒に店やってみよう！
元気にいきてクラファンで復活や！

小林さん「ほんと、最初は『百老亭』の暖簾の重さとか、なんも知らずにやりますっていつちやって笑。よく勘違いされるんですけど、常連客だったとか味に惚れ込んで後を継いだみたいに見えること多いんですけど。そうではなくて、単純にお父さんの元気を取り戻したかっただけですね笑」

ただ、元気になつて欲しい。それだけ。

こうして令和4年（2022）、前の店舗の目と鼻の先に『百老亭』の看板が再び甦った！「昔と変わらん」とか、むしろ美味くなつてるとか、言われるとうれしいっすねー」そう語る小林さんは満足げだ。

焼（ヤキ）餃子 10ヶ 650円
皮・餡・包みまで全て自家製
香ばしい焼餃子



炊（スイ）餃子 10ヶ 650円
つるんと舌触りのいい炊餃子
さっぱりとした口



炸 麵（パリソバ）750円
野菜と時間が経つにつれ
食感が変わる揚げ麵が飽
きない一品



令和四年復活の文字が刻まれる
新店舗。今日も賑わっている

「お父さん」こと鈴木さんも健在！厨房に立つて腕を揮っている。
小林さん「古いお客さんも新しいお客さんも満足してもらえようしなかなので、責任は重大です。自分は日本一美味しい餃子を焼くんで、みなさんは是非来てください！」

縁が結んだ絆が、百老亭を蘇らせた
血縁も、契約もない。ただそこには意思が熱意がある。飲み屋で隣に座った若者が店を継ぎ復活することもある。暖簾を降ろしたあの日から物語は始まっていたのだ。